

わが人生に悔いなし

広林 幸子(愛知県尾張旭市・八十一歳)

一年前、「退職者の会・会報」“あゆち”

六回シリーズ「老いを生きる」に「わが人生に悔いなし」と小文を残し今年、八十八才の誕生日を迎えた朝、あなたは逝ってしまった。

「故人はどんな人でしたか」とご住職に聞かれ、六十年を共に過ごした私は即座に「教育、命のような人でした。」すると、「多くの人を優れた教えに導いた」という意味の戒名をいただきました。

夫の訃報を知った大学時代の友人から「若者を支え導くその道をただひとすぢに君は生きたり」とお手紙の最後に歌を手向けていただきました。

あなたは、大学卒業後、公立高校の教師となり定年退職後も、当時、不登校生徒、八割、全寮制の私学に赴き二十五年間、生徒、学校経営に関わりました。四人の子どもがまだ幼かった頃、時にわが子も羨むほどに生徒に目を向け、多忙極まりない日常を送りました。数学の教師でしたが、多くの卒業生の方から私の元に「先生は恩師であり、人生の師でした」とお手紙をいただきました。

若い頃から正義感が強く曲がった事は大嫌い、それは、母親ゆず

りの性格だと自慢していました。他人もわが子も、嫁、娘、男女を問わず平等に接してきました。四人の子どもたちは皆、あなたのことを尊敬し、背中を見て今日まで来ました。戸惑った時は、時に相談し、「おやじ、父ちゃんならどうするだろう」と考え、指針にしてきたそうです。

生前、「自分は、やりたい事を精一杯やらせてもらった、感謝する。わが人生に悔いなし、だな」と。そして、照れ屋のあなたは、好きな戦後歌謡曲「異国の丘」「長崎の鐘」「青い山脈」「ここに幸あり」などを聴きながら「ここに幸子あり、だな」と優しい眼差しを私に向けてくれました。私の方こそ感謝でいっぱいです。本当に幸せでした。あなた、お疲れさまでした。千の風になって、あの大空を吹きわたり、私たちを見守ってください。